



せん げん やま 浅間山

可児市立東可児中学校
令和5年9月25日発行

「根」を掘り起こして「根」を育てる

生徒指導主事 梅田 佳宏

9月23日は秋分の日でした。暦の上ではすでに秋ですが、秋らしからぬ日が続いています。金木犀の香りが待ち遠しいです。みなさま、体調等はお変わりありませんでしょうか。

やや季節外れの話になりますが、本校では紫陽花が梅雨の校庭を彩りました。陽当たりがよくない場所で、はかなくも確かに咲いた紫陽花に心を洗われました。よく見てみると、茎が伸び、絡まった状態でした。そこに蜂等が巣をつくるため、安全面から花壇の整備をすることにしました。そう思っていた矢先、2年生の生徒数人が鍬を持って駆けつけてくれました。こうして、花壇の掘り起こし作業が始まりました。

長い年月をかけ、紫陽花は着実に根を下ろして伸ばしていました。土の中では、太い根が無数に伸び、掘っても掘っても鍬が根に引っかかり、うまく掘り進められない状態でした。作業は困難を極めました。汗を流しながら、何日もかけて掘り起こし作業を進めました。一日では抜けない根の力強さには、生徒も私も根負けしそうでしたが、それでも、鍬で土を掘り、茎を切りながら、花壇を掘り起こしていきました。苦労した分、生徒と一緒に紫陽花の根を抜ききったときの喜びもひとしおでした。

もう一つ、喜びを感じたのは、何気なく始めた掘り起こし作業から、「輪」ができていたことです。掘り起こし作業に来ていた生徒の中には、昨年度、敷地沿いの草刈りをしていた生徒たちがいました。その生徒から学級の壁を越え、新たな生徒と一緒に作業に加わりました。また、その姿を見ていた1年生の生徒たちも、「僕たちにできることがありますか？」と作業に加わりました。いつの間にか、学年の壁をも超えた掘り起こし作業になっていたのです。地道な作業で、手間もかかりますが、必死に根を抜き、そこに楽しさを感じている生徒たちの姿に、私は感性の成長を感じました。

花壇の掘り起こし作業を通して、きれいな花壇の裏には、必ず環境を整える人がいることを再認識しました。見届けや手間を惜しまないことで、きれいで整った花壇が保たれています。これは、よく考えれば、日常生活にも通じます。挨拶に力を入れて活動している生徒のおかげで、学校の雰囲気明るく保たれています。清掃活動を黙々とがんばる生徒がいるから、共同で使う場所が使いやすい状態で保たれています。授業でも、自分の意見を伝える仲間がいるから、複数の意見を知ることができ、自分の考えを深めることができている。校外のことも同様だと思います。いかに自分をそこに関わらせていくか、他人事にせず輪に加わっていくか、その一步を踏み出す力は、AIが発達した未来でも通用する資質・能力だと考えます。地道な花壇の整備でも、小さな手間や見届けを大切にして活動すれば、雰囲気をよくし、過ごしやすい環境を整えることにつながるものが学べます。踏み出した一步が、生徒一人一人の人格の根を太くたくましいものにしていくことを願い、今日も生徒たちと花壇を掘り起こします。



東可児中ポータルサイト

